



桐生ロータリークラブ週報

国際ロータリー第2840地区 2023-2024年度 国際ロータリーのテーマ

2024年

SERVE TO CHANGE LIVES

R.I 会長 ゴードン・R・マッキンリー



世界に希望を生み出そう

善意というものがないなら
ロータリークラブは唯の社交クラブだ。
職業は金儲けのためでしかなく、
社会奉仕というも施しにすぎず、
国際奉仕は外交以外の何ものでもない。

パストガバナー 前原 勝 樹

会長 大友一之 幹事 中山賀司

クラブ会報・情報委員会

富澤剛・横山嘉孝・前原勝・坪井良廣

3月11日号

第3248回例会

(3月4日(月)第1例会)

1. 点 鐘
2. 国歌斉唱
3. 桐生市歌斉唱
4. 四つのテスト唱和
5. 来訪者紹介
6. 新会員入会式

(株)タカダトータルシステム

代表取締役 高田 聡 様

(1)推薦の言葉 宮川 和也君

(2)バッチの贈呈

(3)歓迎の言葉

(4)新会員挨拶

7. 結婚・誕生祝
8. 乾 杯
9. 会長の時間
10. 幹事報告
11. 委員会報告
12. 卓 話

「防災対策を Unlearn～防災の当たり前の再考～」

群馬大学 大学院理工学府 環境創生部門

広域首都圏防災研究センター

教授 金井 昌信 様

13. 点 鐘

ようこそビジター

＜卓話者＞ 群馬大学 大学院理工学府 環境創生部門 広域首都圏防災研究センター 教授 金井 昌信 様

新会員入会式



(株)タカダトータルシステム

代表取締役

高田 聡 君

歓迎の言葉 大友会長

株式会社タカダトータルシステム代表取締役高田聡君 入会おめでとうございます。

入会前にネット等でロータリーのことをお調べになっていると伺っておりますので、ロータリークラブがどのような活動をしているかはある程度ご承知のことと思いますが、奉仕や行事などいろいろな活動がありまして、参加していくとロータリークラブもけっこう奥が深いことに気づかれると思います。その中で得た経験はきっと高田君の今後の事業活動や行動に活かされていくと思います。最初は何もわからずに戸惑うことも多々あるかと思いますが、積極的に参加していただくと幸いです。当クラブの会員はみな心優しく親切ですので、不明な点や疑問がありましたら近くにいる会員に遠慮

なく聞いてください。これから始まるロータリーライフをしっかりと楽しんでいただければと思います。

簡単ですが、当クラブ会員を代表して、新会員歓迎の言葉とさせていただきます。

結婚祝

久保田寿栄君

岩崎 靖司君

腰塚 富夫君



誕生祝

丹羽あゆみ君

坪井 良廣君

新井 智二君

小林 康人君

山口 正夫君

中山 賀司君

生方 龍瑞君



会長の時間

2月の活動や今後の予定は申し上げたとおりです、まずは2月10日土曜日に開催されましたインターシテミーティング、保坂ガバナー歓迎会には多くの会員にご参加をいただき、ありがとうございました。各クラブの先輩方からいろいろな経験をお話いただき、有意義なミーティングであったと思います。

また、2月28日水曜日は、26日月曜日の移動例会として桐生南ロータリークラブとの合同夜間例会になりました。二つのクラブで合同例会はあまり経験がありませんが、今回は双方の会員が和やかに交流できてとてもよかったと感じております。今回は桐生南RCの加藤会長、板場幹事に設定準備を全てお願いして、当クラブが先方にお邪魔する集団メイクアップのようになってしまいました。心より感謝申し上げる次第です。

桐生南RCは桐生西RC、桐生赤城RCとも合同夜間例会を開催されましたが、年に一回くらいはこのような機会があってもよいかなと思いました。

なお、次年度の森ガバナー年度に向けて、次年度会長幹事セミナー、地区協議会、地区大会の準備会議等も増えてきております。森GE、後藤地区幹事、桑原・飯塚筆頭地区副幹事の忙しくなってきたよいよという感じですが、会員の皆さまには今後もご協力をよろしくお願いいたします。

《報告》

- 2/7 桐生市ゴミ減量化推進協議会買物袋持参運動
藤田社会奉仕委員長
- 2/10 IM・保坂ガバナー歓迎会
- 2/12 休会
- 2/15 森ガバナー年度地区チーム研修セミナー資料
作成 後藤幹事・松島会計長・地区副幹事
- 2/17 ガバナー諮問委員会
疋田PG、森GE、後藤地区幹事、松島地区財務委員
地区三役連絡会議
森GE、後藤地区幹事、松島地区財務委員
地区チーム研修セミナー // 4名、
地区副幹事、Randolph委員長
- 2/19 休会
ガバナー補佐会議 須永ガバナー補佐
地区ラーニング・管理運営委員会
森GE、後藤地区幹事、松島会計長
桑原地区副幹事
- 2/21 桐生4RC会長幹事会
- 2/22(木)家族会役員会 自在庵
- 2/23(金・祝)ロータリーデー 共愛学園
森GE、会長、平岩室長、青木青少年
奉仕委員長、Randolphグローバル委員長
- 2/24 RAC年次大会 ロックハート城にて
森GE、青木委員長、桑原委員、RAC7名
- 2/26 28日桐生南RCとの合同例会に振替休会
- 2/27 森ガバナースタッフ会議

- 2/28 地区ラーニング・管理運営委員会 松島研修委員
桐生南RCとの合同夜間例会
- 2/29 富岡中央RC創立60周年 メイク 会長
- 3/2 米山奨学生修了式 森GE、大友会長
米山奨学生 匡 姣蓉様

《予定》

- 3/4 例会終了後、定例理事会
森年度地区研修協議会実行委員会
森GE、後藤地区幹事、松島地区会計長、
桑原地区副幹事

幹事報告

- 国際ロータリーより、ロータリーレートのご案内です。
3月は、1\$ = 151円です。
- ローターアクト今井地区代表より、地区年次大会の
お礼状が届いております。
- 日本てんかん協会より「からっかぜ」が届いております。
- 桐生南、桐生西、桐生赤城の各RCより週報到着。
- 例会終了後、定例理事会を開催致しますので、関係
理事役員の方々はご出席よろしくお願い致します。

委員会報告

出席委員会

本日の出席(令和6年3月4日)

総員72名:出席49名

令和6年1月29日例会修正出席率:75.0%

令和6年2月5日例会修正出席率:72.3%

☺ ニコニコボックス

大友一之君、松田秀夫君、腰塚富夫君、宮川和也君
…高田聡君をお迎えして。入会おめでとうございます
／大友一之君、森末廣君…金井先生、本日の卓話あ
りがとうございます。よろしくお祈りします／松田秀夫
君…金井先生お忙しい中卓話をありがとうございます。
楽しみにしております／坪井良樹君…金井先生桐生
青年会議所では、2011年防災セミナーお世話になり
ました／須永博之君…イオンモール太田へ出店する
ことが出来ました。ユニクロの前です／水越稔幸君…
ヘアーの色変えました!!どうですか?／平岩千鶴子君
…お蔭様で2月23日に娘が結婚致しました。安心し
たら気が抜けました／青木貴子君…コロナにかかり大
友会長をはじめとし会員の皆様にご迷惑をおかけし、
すみませんでした／久保田寿栄君、腰塚富夫君…結
婚祝／坪井良樹君、小林康人君、中山賀司君…誕
生祝／津久井真澄君…写真を戴きました。

卓 話



「防災のあり方を Unlearn
～防災の当たり前を
再考の再考～」

群馬大学大学院理工学府
教授 金井 昌信 様

災害犠牲者ゼロの社会実現に向けて
自然災害の多発化、激甚化を受け、行政による防災対策(公助)だけでなく、住民一人一人に適切な備えと行動(自助)が求められている。この状況のなかで、我々防災関係者は、全住民に対して異口同音に「日頃から防災意識を高く持って、災害に備えよう」というキャンペーンを行ってきた。これによって、防災に興味・関心を持ち、具体的な備えを行うようになった住民がいることは間違いない。しかし、現状において、多くの住民がちゃんと災害に備えていると認識している人はいないのではないか。これまでの対策の方向性(みんな、頑張ろう)は理想的かつ美しい政策方針であり、多くの人を受け入れやすいものであると言えよう。しかし、あと何年、同様のアプローチで住民に働きかけたら、防災意識を高く持ち災害に備えるようになるだろうか。悲観的な観測になるが、現在備えることができていない人は、これまでと同じ方針で対応していたのでは何も変わらないのではないだろうか。それらの人々が備えるようになるのは、自身が被災したとき、すなわち「痛い目を見たときとなってしまうのではないか。住民の防災行動を促進し、被害を軽減するためには、これまでとは異なるアプローチも必要ではないか。そこで紹介したいのが『Unlearn(アンラーン)』である。『Unlearn(アンラーン)』とは、“これまで身につけた思考のクセを取り除く”ことであり、“これまでに学んだ知識や身につけた技術を振り返り、さらなる学びや成長につながる形に整理し直すプロセス”のことである 1)。防災においても、個々の住民の防災行動を促進するために、これまで当たり前としてきた「日頃から防災意識を高く持とう」という前提を一度見直して、災害犠牲者ゼロの社会を実現するために、個々の住民に求めるべき備えや考え方を再考してみる必要があるのではないか。そこで拙稿では、上記のような問題意識のもと著者が実践している地域防災活動(地区防災計画の策定や講演・研修など)において、地域住民に提案している「日頃から防災意識を高く持とう」に変わる災害への備えに対する考え方(姿勢、態度)を紹介したい。

“日頃から”の再考

まずは、“日頃から”防災意識を高く持つ必要があるのかについて再考したい。

極端な例になるが、好天が数日続くとの予報がでて晴れた日に、風水害の心配をする必要はない。風水害から命を守るためには、「台風が数日後にやってくるという予報がでたとき」や「実際に雨が降り始めたとき」、「避難情報がでたとき」にその状況や情報に応じた適切な行動をとることができるかどうかが重要となる。すなわち、日頃から意識することよりも『そのとき、意識して行動する』ことが必要になる。

ここでリスクを回避するために『そのとき、意識して行動する』ことが必要になるのは、防災だけではない。例えば、我々が生活するうえで身近なリスクと考えられる交通安全、防犯、防疫なども同様である。自宅にいるときに車に注意する必要はないし、他者に会わないのであればマスクをする必要もない。交通量の多いところを通るときや人がたくさんいるところに行くときに注意して行動することができれば、リスクは低減する。

一方で、交通安全、防災、防疫と防災には、大きく異なる点がある。それは頻度と能動的か受動的かという点である。交通安全、防災、防疫は、外出した際に気をつけることが求められるので、ほぼ毎日気を付けることになる。そのため、日頃から意識する、という言い方でもそれほど違和感はない。さらにこれらのリスクは、自ら気を付けるとき(外出するタイミング)を選ぶことができる。一方で、防災は、その頻度は毎日とは比べものにならないくらい低く、かつそのタイミングは受動的(自分で災害にあうタイミングは決められない)である。そのため、相手(自然)から押し付けられたタイミングで、「今がそのとき」と頭のスイッチを切り替えて、行動できるかどうかが生死を分けることにつながる。

もちろん、防災についても日頃から意識していることで、そのときに行動できる可能性が高まるかもしれない。しかし、日頃から意識することに限界があるのであれば、これに変わる実行可能かつ具体的な対策を考えるべきであろう。そこで、『頭のスイッチの入れ替え』を提案したい。すなわち、日頃から意識するのではなく、1年に1度でよいので、防災のこと、と言っても、あれこれ考えるのではなく、災害で死なない方法を考える日をつくることを提案する。具体的には、自宅に想定されている災害によって、自分を含めた家族が犠牲になるような状況を想定し、そのような状況になっても、犠牲にならないためには、どうしたらよいのかを具体的に考える。講演等では「年に1回、家族全員、災害で死んでみてください」と住民には訴えている。どのような状況になると想定される災害で犠牲になる可能性があるのかを考えることで、それを回避するための行動や場合によっては備えが具体化されると考え、このような提案をさせていただいている。

“防災意識”の再考

次に“防災意識”について再考したい。

なお、ここでは防災意識とはどんな意識であるのかについては、紙面の都合上、議論を割愛させていただく。読者には以下のような例をもとに防災意識について再考していただきたい。

近い将来巨大地震の発生が危惧されており、かつ河川が氾濫した場合には5メートル以上の浸水が想定されている地域がある。ここに昔ながらの商店街の中に再開発で新築マンションが増えている自治会に所属している二人の住民がいる。一人は、生まれも育ちのこの地域で、商店街組合の会長などをしていて、毎年地域の防災訓練の取り仕切りをしている人。もう一人は、結婚を機にこの地域に引っ越してきて、近所付き合いのわずらわしさを軽減するために戸建ではなくマンションを選択し、地域の防災訓練があることを知っても参加を躊躇している人。

一般的に防災意識が高いと言われるのはどちらだろうか？多くの方は前者と答えるであろう。では、地域に想定されている災害が発生した場合、生き延びる可能性が高いのはどちらだろうか？前者は個人でいろいろと防災対策をしているであろうが、地震が発生した場合、自宅が被災しなくても隣近所の家屋が倒壊したり火災になったりして被災する可能性がある。また水害の場合、自宅以外の安全な場所へ避難しないと被災する可能性がある。そのため、災害で死なない、という観点だけで言えば、地震でも水害でも自宅でも何もしなくても生き残れる可能性が高い後者の方が前者よりも生きのびる可能性が高いといえよう。

ここで指摘したいことは、意識しないと行動できない、という不安定な条件を前提とするのではなく、『災害に強い生活様式への転換』を促すことの必要性である。意識して備えるのではなく、普段の生活（無意識）の中で防災を日常化するような備え方を具体化することの方が、定型化された災害への備えよりも実行性が高くなるのではないか。命を守る備えとは言い難いが、ローリングストックやフェイズフリーなどは同じ方向性をもった考え方といえよう。

“高く持とう”の再考

最後に、防災意識を“高く持つ”必要があるのかについて再考したい。

例えば、以下のような問い合わせを受けたら、読者の皆さんは、どのように回答するだろうか。

耐震性の低い古い木造家屋に一人で暮らしている 80代の年金暮らしの高齢者から、「自宅の耐震診断を受けた方がよいか？」と相談を受けた。

地震が多発するわが国において、耐震補強、家具の固定などの自宅の安全性を高める備えは地震が命を守るために必要不可欠である。そのため、防災のことだけを考えれば、耐震診断を受けて必要な補強工事を行うべきである、という結論になる。しかし、80代の単身高齢者という属性を考えると、その自宅で居住している間に大きな地震が発生する可能性はどれほどあるだろうか。小さくない経済的負担を強いてまで耐震補強を行う必要は本当にあるのだろうか。この方にとって、もっと幸福なお金の使い方があるのではないだろうか。

防災上必要なことは必ずしなければならない、と正論を振りかざすことが、本当に人々の幸福に寄与するのかわ、今一度見直してみるべきではないだろうか。著者は、防災は「生き方」の一つと考えている。何にどこまで気を配って（注意して）生活するのかわ、個人の経済力や何を大切にするのかに依存する。例えば、明日食べる物にも困っている人に、起こるかもしれない災害に備えて、投資せよと言っても、何の実効性もない。先ほどの例であれば、長くても10年くらいしかこの家に住まないだろうから、耐震補強はしない、という選択に合理性が全くないとは言いきれない。そこで必要になるのは、『覚悟』ではないだろうか。問題なのは、「知らずに（知らずとせず）に、やっていない」ことであって、「わかっている（知っている）、覚悟をもって、ここまでは備える、ここから先に生じる被害は受け入れる」という考え方があってもよいのではないだろうか。

防災対策に唯一絶対の正解はない

災害リスクの程度、個人属性、地域属性等だけでなく、個人の考え方（覚悟の程度）によっても、正解となる防災対策は異なるはずである。一律に日頃から高い防災意識をもつことを求めるのではなく、最低限（死なない）を担保することを目指した対策の方向性があるのもよいのではないだろうか。なお、拙稿の提案も考え方の一つに過ぎないと自覚しているので、これが唯一絶対の正解であると勘違いしないようにご注意ください。

参考文献

1) 柳川範之・為末大, アンラーン人生 100年時代の新しい「学び」, 日経BP, 2022.

本日の食事

🌸本日のお花🌸



ランコントレ

米山記念奨学生終了式・歓送会

3月2日米山記念奨学生終了式及び歓送会がホテルメトロポリタン高崎にて開催されました。匡 姣蓉さんと森ガバナーエレクト、大友会長が出席致しました。

